

2024 年 7 月 31 日 全 7 頁

Indicators Update

2024 年 6 月 鉱工業生産

自動車や半導体関連財などが減産し、生産指数は全業種で低下

経済調査部 研究員 石川 清香

[要約]

- 2024 年 6 月の生産指数は前月比▲3.6%と、2 カ月ぶりに低下した。自動車工業が工場稼働停止などの影響で低下し、全体を押し下げた。また、生産用機械工業では半導体製造装置、電子部品・デバイス工業ではモス型 IC（メモリ）が減産となり、半導体関連財の生産の落ち込みが目立った。このところ急激に増加していたこともあり、反動減が表れた可能性がある。
- 先行きの生産指数は、緩やかな上昇基調を辿るとみている。自動車の生産体制の正常化で、受注残に対応するための挽回生産が見込まれる。また、シリコンサイクル（世界半導体市場に見られる循環）の回復局面入りで、半導体関連財の生産増加も押し上げ要因となる。ただし、輸出管理規制の強化によって、中国での半導体関連財の販売額が落ち込み、日本の生産指数を下押しするリスクには注意が必要だ。
- 2024 年 8 月 7 日に公表予定の 6 月分の景気動向指数は先行 CI が前月差▲2.4pt の 108.8、一致 CI が同▲3.4pt の 113.7 と予想する。この予測値に基づくと、6 月の基調判断は機械的に「下げ止まりを示している」に据え置かれる。

図表 1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2023年		2024年							
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
鉱工業生産 コンセンサス DIR予想	▲0.6	+1.2	▲6.7	▲0.6	+4.4	▲0.9	+3.6	▲3.6 ▲4.5 ▲3.5		
生産予測調査 補正值(最頻値)									+6.5 +4.0	+0.7
出荷	▲0.8	+1.6	▲7.5	▲0.7	+4.7	▲0.4	+3.9	▲4.3		
在庫	+0.0	▲0.9	▲1.7	+0.6	+1.0	▲0.2	+0.9	▲0.6		
在庫率	+1.5	▲2.3	+2.6	▲5.6	+7.6	▲0.7	▲1.2	+2.1		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】全業種で指数が低下、自動車工業では在庫調整で生産抑制か

2024年6月の生産指数は前月比▲3.6%と、コンセンサス（同▲4.5%、Bloomberg 調査）を上回ったものの、2カ月ぶりの低下となった。経済産業省は基調判断を「一進一退ながら弱含み」に据え置いた。

生産指数を業種別に見ると、全15業種が前月から低下した。自動車工業（前月比▲8.9%）が工場稼働停止などの影響で低下し、全体を押し下げた。普通乗用車（同▲12.3%）や駆動伝導・操縦装置部品（同▲8.1%）、軽乗用車（同▲8.0%）など、前月に大幅に増産していた幅広い品目で減産となった。前月に在庫が大幅に積み上がっていたため、在庫調整で生産が抑制されたものとみられる。また、認証不正問題や部品の不具合・欠品などの影響で一部車種の実生産が停止されていたことも影響した。

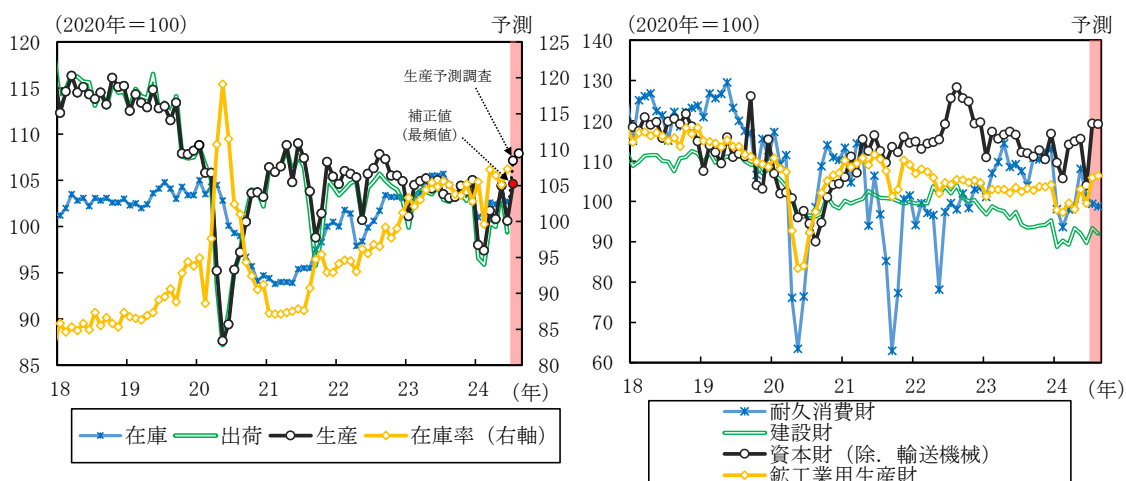
また、生産用機械工業（前月比▲8.7%）では半導体製造装置（同▲18.0%）が、電子部品・デバイス工業（同▲5.8%）ではモス型 IC（メモリ）（同▲18.2%）が減産となり、半導体関連財の生産の落ち込みが目立った。このところ急激に増加していたこともあり、反動減が表れたとみられるが、均して見れば高水準を維持している。世界半導体市場統計に見る半導体販売額は増加基調を維持しており、生産予測調査における計画も堅調であることから、半導体関連財の需要は依然として強いとみられる。

財別では、生産財（前月比▲3.4%）、資本財（除. 輸送機械）（同▲10.0%）、耐久消費財（同▲6.4%）、建設財（同▲2.6%）、非耐久消費財（同▲0.8%）のすべてが低下した。

【出荷・在庫】出荷指数は2カ月ぶりに低下

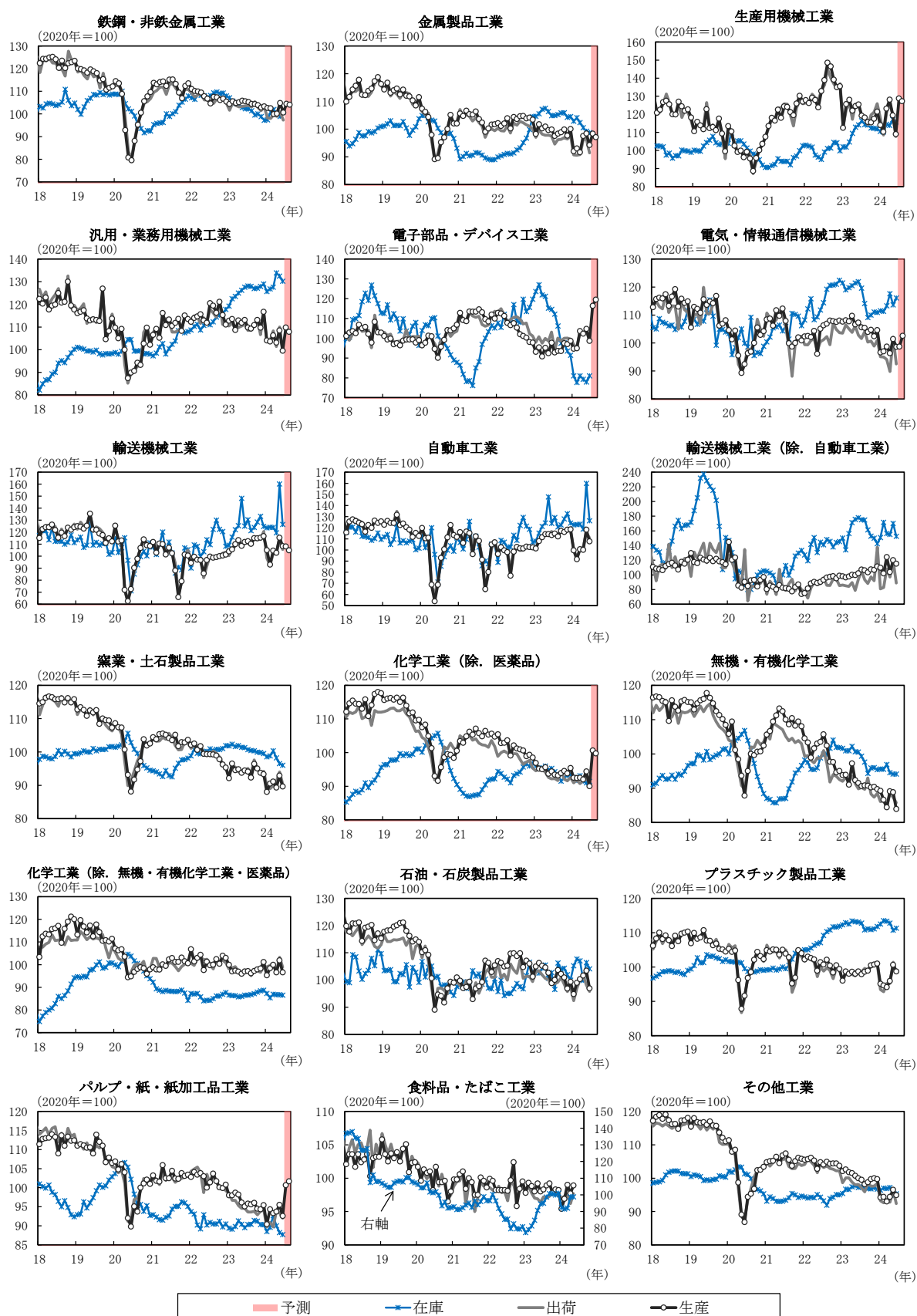
6月の出荷指数は前月比▲4.3%と2カ月ぶりに低下した。業種別では、全15業種が低下し、特に生産用機械工業（同▲10.3%）の低下幅が大きかった。財別では生産財や資本財（除. 輸送機械）、耐久消費財、非耐久消費財、建設財のすべてが低下した。在庫指数は同▲0.6%、在庫率指数は同+2.1%となった。

図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



【先行き】生産指数は緩やかに上昇

先行きの生産指数は、緩やかな上昇基調を辿るとみている。自動車の生産体制の正常化で、受注残に対応するための挽回生産が見込まれる。また、シリコンサイクル（世界半導体市場に見られる循環）の回復局面入りで、半導体関連財の生産増加も押し上げ要因となる。ただし、輸出管理規制の強化によって、中国での半導体関連財の販売額が落ち込み、日本の生産指数を下押しするリスクには注意が必要だ。

ダイハツ工業は、認証不正問題を受けて一部工場の稼働を停止していたが、生産体制はすでに正常化しており、今後は受注残を解消するための挽回生産が生産指数を押し上げるだろう。7月17日に2車種の生産が再開され、これをもってすべての現行車種の生産が再開した。

6月3日には国土交通省が一部自動車メーカーによる新たな認証不正を発表したが、影響は軽微なものにとどまるとみている。マツダは、7月22日までに対象2車種の生産を再開した。他方でトヨタ自動車は、生産停止中の3車種について、8月末まで停止期間を延長すると明らかにしており、9月以降の再開時期は未定だ。ただし、3車種の生産台数は2023年度で13万台程度と、国内の乗用車生産台数の2%弱にとどまるうえに、対象車種以外では挽回生産が見込まれることから、全体でみれば生産の増加が続くだろう。

また、シリコンサイクルの回復局面入りは生産指数の押し上げ要因だ。日本半導体製造装置協会によれば、6月の半導体製造装置販売高（3カ月平均）¹は前年比+31.8%と6カ月連続で増加した。特に販売が好調な中国では、「新質生産力」をキーワードに製造業投資を増強している²。中国政府は、今年5月に資本金約7.4兆円規模の半導体産業向け投資ファンドを設立するなど半導体産業の育成に注力しており、今後も中国における日本の半導体製造装置の需要は堅調に推移するとみられる。ただし、米国が対中半導体規制の強化を検討しているとの報道³もあり、日本企業も対応を求められれば、国内の半導体関連財の生産に影響を及ぼす可能性がある。

製造工業生産予測調査によると、2024年7月の生産指数は前月比+6.5%（生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同+4.0%）と見込まれている。業種別では11業種中9業種が上昇する見込みだ。生産用機械工業（同+18.1%）では半導体製造装置の生産増が見込まれるほか、電気部品・デバイス工業（同+18.0%）でも増産の予定だ。

8月の生産は前月比+0.7%となる見込みだ。業種別では、11業種中4業種が上昇するとみられている。電子・情報通信機械工業（同+3.9%）や、電子部品・デバイス工業（同+2.7%）などが上昇する見通しだ。他方で、輸送機械工業（同▲3.0%）は低下の見通しだ。調査が行われた7月初旬時点では認証不正の影響が不透明であったこともあり、企業が慎重な見通しを示した可能性がある。

¹ 日本半導体製造装置協会「[2024年6月度販売高（SEAJ速報値）日本製半導体製造装置（3ヶ月平均）](#)」

² 齋藤尚登「[中国：前例のない住宅市場テコ入れ策は不発か](#)」（2024年6月21日、大和総研レポート）

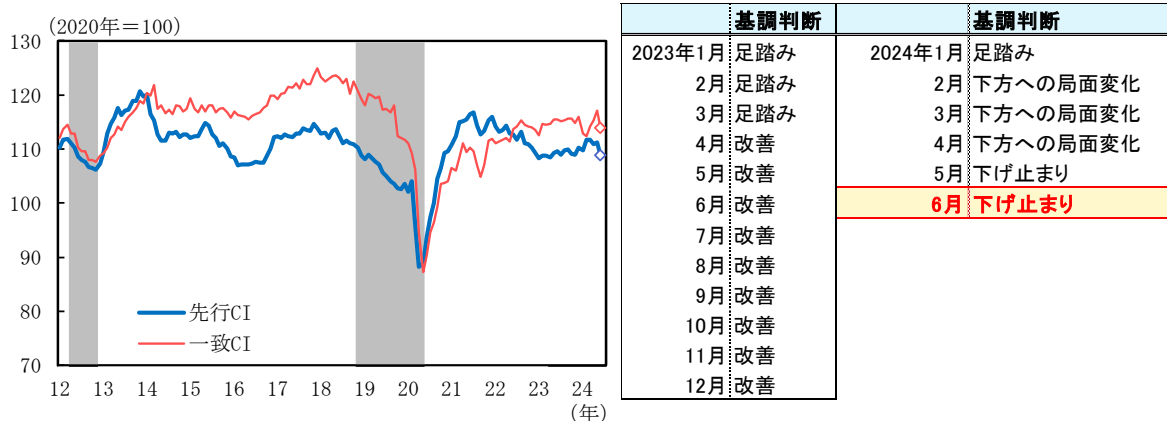
³ Bloomberg「[米、対中半導体規制で最も厳格な措置検討と同盟国に警告一関係者](#)」（2024年7月17日）

【6 月景気動向指数】先行 CI・一致 CI とともに低下の見込み

鉱工業指数の結果を受け、2024 年 8 月 7 日に公表予定の 6 月分の景気動向指数は先行 CI が前月差▲2.4pt の 108.8、一致 CI が同▲3.4pt の 113.7 と予想する（図表 4）。先行 CI では構成指標のうち、鉱工業用生産財在庫率指数や中小企業売上げ見通し DI、マネースtock（M2）、などが悪化した。また一致 CI では構成指標のうち、投資財出荷指数（除輸送機械）や生産指数（鉱工業）、鉱工業用生産財出荷指数、などが悪化した。この予測値に基づく、6 月の基調判断は機械的に「下げ止まりを示している」に据え置かれる。

先行きの経済は緩やかな改善基調が続くと見ている。4-6 月期の実質 GDP 成長率は、自動車の挽回生産による個人消費や設備投資の押し上げなどにより、プラス成長に転じると予想する。個人消費は増加を見込むものの、このうちサービス消費については横ばい圏で推移したとみられる。賃上げや定額減税による所得環境の改善が下支え要因となった一方、宿泊業などの一部のサービス業では料金の高騰などを背景に需要が弱含んだ可能性がある。

図表 4：景気動向指数（先行 CI、一致 CI）と基調判断の推移

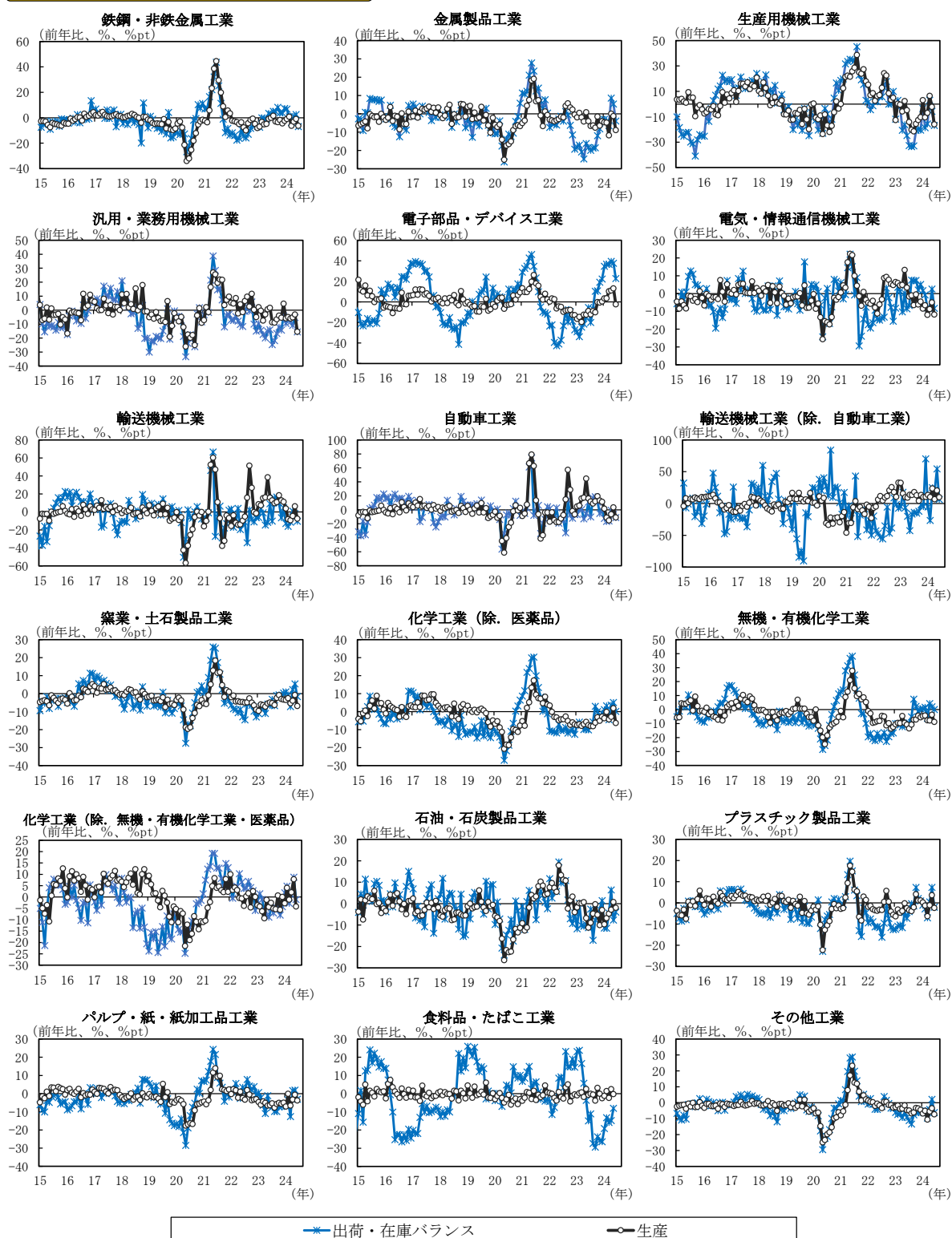


（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。

右図の2023年4月以前の基調判断は2015年基準による。2024年6月は和総研予想。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

業種別 出荷・在庫バランスと生産



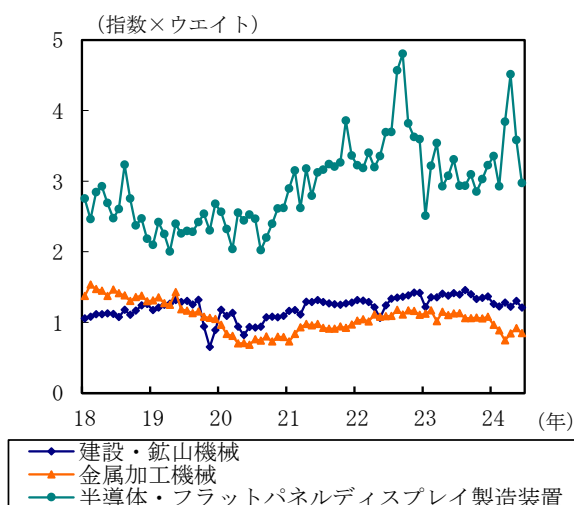
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

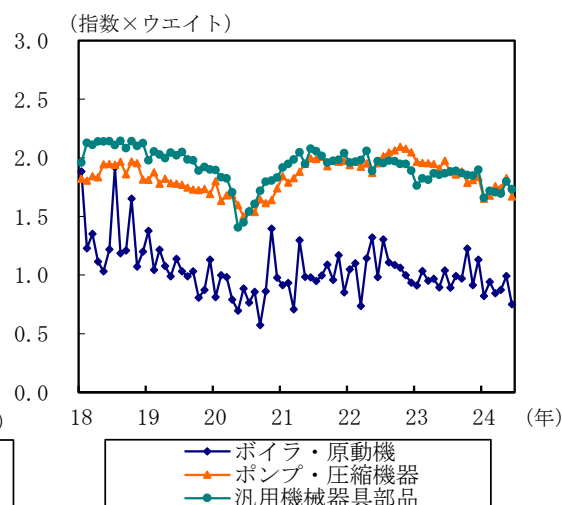
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

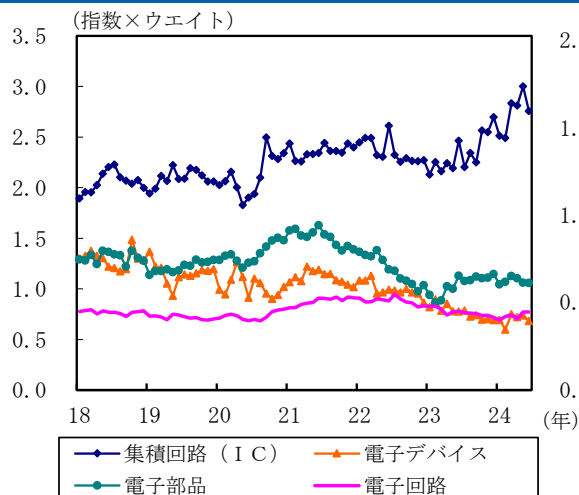
生産用機械



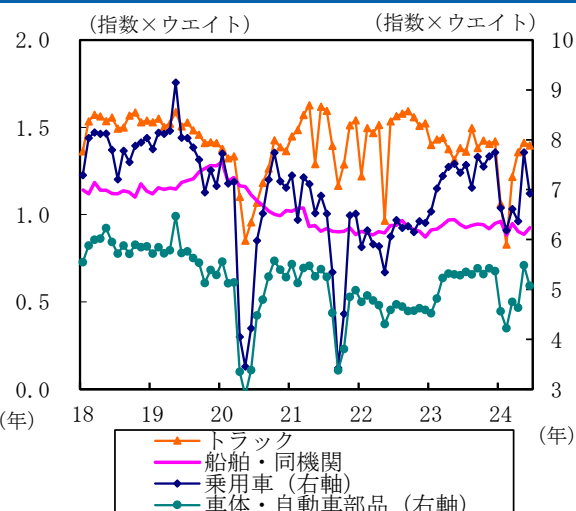
汎用・業務用機械



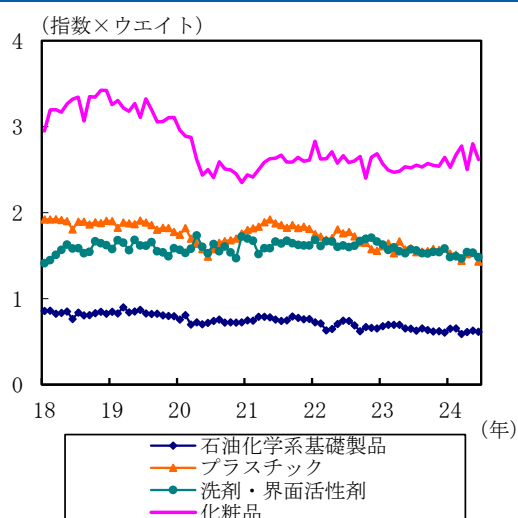
電子部品・デバイス



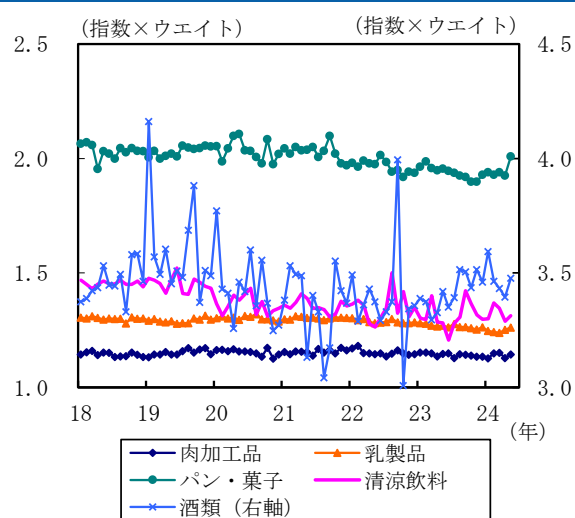
輸送機械



化学



食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成